

耳の聞こえに不満はありませんか？ — 補聴器を購入する際の留意点 —

難聴は老眼と同様40才頃からほじまり、年をとれば誰でも起ります。老眼に対するメガネのように、補聴器は聴力を補つためのものです。

◆難聴による影響はさまざま

補聴器に抵抗を感じる人もいますが、聞かぬの悪い状態では生活の質が低下します。例えば、スムーズな会話ができなくなるので、家庭や社会で孤立しやすくなります。また、外出先では、自動車の音に気付きにくくなるなど、危険にさらされやすくなります。また、耳から入る情報が非常に少なくなるので、脳の活動が低下することもあります。

◆耳の聞こえと補聴器が必要な場合





ささやき声や静かな会話が聞き取りにくい 	普通の会話が聞き取りにくい 	大きな声でなければ聞こえない 	耳元の大きな声でも聞き取りにくい 
軽度難聴 聴力レベル 25~49(dB)	中等度難聴 50~69(dB)	高度難聴 70~89(dB)	重度難聴 90(dB)以上
・小さな話し声やささやき声が聞き取りにくい ・会議、会合でときどき聞き取りにくいことがある	・少し離れたところの会話が聞き取りにくい ・騒音下での会話が聞き取りにくい	・耳もとでの大きな声でゆっくり話すと聞き取れる	・耳もとの大きな声でどうにか聞こえる ・普段の会話はほとんど聞き取れない

図1

聞こえの衰えは、気付かないうちに始まっています。自分の聞こえを知ることが、正しい補聴器選びの第1歩です。音の大きさを表す単位をデシベル(dB)といいます。聴き取れる音のデシベル値を目安に難聴の程度を判定します。(図1)

一般的には、聞こえる音の大きさが40~45dB程度から補聴器が必要になります。軽度難聴の範囲内ですが、その中には聞こえが悪いほうに該当し、会話などに支障を来すことがあるためです。

補聴器の使用を考える目安は、日常生活の中にもあります。女性アナウンサーの話が聞き取りにくいことがあります。これは「加齢性難聴」が原因と考えられます。「加齢性難聴」の多くは、高音節の聴力から低下してきます。一般的に、女性は声が高く、アナウンサーは一般人より話す速度が速いので、女性アナウンサーの声が聞き取りにくくなるのです。

◆補聴器を購入する際には

(1) 耳鼻咽喉科を受診

補聴器を使う場合は、まず耳鼻咽喉科を受診して難聴の程度を確認します。

日本耳鼻咽喉科学会が認定する耳鼻咽喉科専門医や補聴器相談医を受診し、補聴器が必要と診断されれば、「診療情報提供書」が作成されます。この「診療情報提供書」を補聴器専門店に持参することで、補聴器選びが進めやすくなります。

(2) 認定補聴器技能者のいる専門店にて試用し購入するのがよい

補聴器を購入する場合、認定補聴器技能者のいる補聴器専門店であれば、購入前に試すこと

ができるでしょう。補聴器を数週間程度試用し、その間に微調整を繰り返して自分に合うかどうかを確認し、十分納得したうえで購入できます。

認定補聴器技能者には、購入後のケアも義務付けられていますから、購入後も不安があったり、補聴器の調子が悪くなったりした場合には相談しましょう。購入後の点検や微調整も可能でこれらの情報は補聴器相談医にも伝えられます。

(3) 補聴器に使われる電池について

補聴器の電源は単3、単4の電池(ポケット型用や、ボタン状の空気亜鉛電池(耳あな型、耳かけ型)です。空気亜鉛電池の寿命は補聴器の機種や使用状況によって変わりますが、一般的には数日から2週間程度のことが多いようです。

予想以上に負担になります。空気亜鉛電池は未使用時のシールをはがすことで、空気中の酸素と電池の中の亜鉛が少ずつ反応して電気をつくり出します。安定的に電気を供給できる半面、シールをはがしてしまうと使わなくてもゆっくりと放電してしまいます。また、電池内部のアルカリ水溶液が蒸発すると十分な効果が発揮できないので、補聴器を乾燥ケースで保管する時は電池を外しておくことが大切です。

◆補聴器の購入時の医療費控除や保険適用は?

(1) 基本的には、補聴器は医療費控除の対象にはなりません。詳細は住所地の税務署に照会することをお勧めします。

(2) 社会保険でも今のところは補聴器の支給や援助はありません。

各市町村によって異なりますので、居住する市町村の福祉事務所窓口にお問い合わせ下さい。